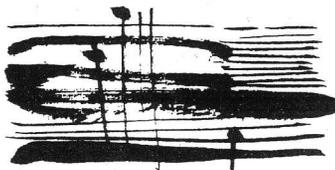


# 展 望



山元 眞

宣教は営業？

幼稚園の保護者の一人の父親から次のように言われたことがある。「神父さんの仕事は、営業みたいなものですね」。どういふことかと尋ねたら説明してくれた。「ある製品を買ってもらったためには、その製品を買ってもらった相手をよく知っていないければならない。相手が何を必要としているのか、その必要に対してその製品はどのように役立つのかを説明できなくてはならない。それがうまくいくと製品を買ってもらえる。神父の仕事も一緒だと思う。キリス

ト教が良いのであれば、その良いところを伝えることができないといけない。相手に伝えるためには、相手をよく知っていないければならない。それができれば、キリストの教えも受け入れてもらえるのではないか」

### 伝えるための翻訳

キリストの教えはこの二千年の間、地球上のさまざまな所で、さまざまな形で伝えられてきた。聖書のことばが単に多くの外国語に翻訳されただけでなく、

## 若者が分かる翻訳を

それぞれ

の時代、それぞれの場所を通して伝えられてきた。キリストの教えは生活の中で、いわば翻訳されて伝えられてきたことになり、翻訳は両方の言語に精通していないとできない。それと同じように、現代社会の中で福音を伝えるためには、キリストの教えと今の時代の双方をよく理解していなければならぬ。日本においてキリストの福音が

### 若者のための翻訳

今、若者のために福音を翻訳し直す必要がある。若者の生活に目を留め、彼らが何を求め、何を喜び、何に悩んでいるのか、何に興味をもっているのかをよく知る必要がある。

まだよく伝わっていないように見えるのは、その翻訳がうまくできていないからではないか。必ずしも新しい翻訳がよくて正しいというわけではないが、今、現代社会の人々が分かる翻訳が求められていると思う。

若者に福音を伝えることについても同じことが言えるのではないか。時代の流れから見ても、昔に比べて若者が教会に集まらないようになってきたし、一人の人として見ても、

それを知って初めて彼らに福音を伝えることができる。ミサへの参加にしても、なぜ彼らが来ないのか、来られないのか、その原因をまず知ることが必要であろう。彼らの現状を見ることなしに、ただ「昔は良かった」というだけでは問題の解決にならない。彼らが理解できるようにミサ典礼の意味を翻訳し直し、彼らが理解できるように典礼を工夫する必要もある。その他、倫理的な事柄に関して

### 聞くことから始まる

教会の中で若者の場がない。若者と話すことができない。話すことができない。まず声を掛け、彼らの声を聞くことから始めてはどうだろう。大人たちは、神父を含めて、今の若者について一般的には何となく理解しているようだが、一人ひとりのナマの声を聞いてはいない。声を掛け、まず彼らの言うことに耳を傾け続けているけば、福音が彼らに伝わる言葉が見つかり、彼らのために福音を翻訳して伝えることができるだろう。「世界青年の日」に当たり、新しい「翻訳」をする決意を持ちたいものである。

幼少のころは教会に来ていたのに小学校高学年になるとだんだん来なくなっている。

「世界青年の日」に当たり、新しい「翻訳」をする決意を持ちたいものである。

(福岡教区司祭)